



2007年11月7日

各位

会社名 株式会社ジーエヌアイ
代表者名 代表取締役会長兼社長 佐保井 久理須
(コード番号:2160 東証マザーズ)
問合せ先 専務取締役 CFO 鈴木 勘一郎
(TEL. 03-3580-0751)

中国特許庁が肝疾患の重要な治療薬 F351 の特許をジーエヌアイに付与

[2007年11月7日 東京] 先進創薬企業であるジーエヌアイ（日本と中国に拠点を有する）は、「中国特許庁が、ジーエヌアイの100%子会社である上海ジェノミクスが保有するリード候補物の1つであるF351に関係した中国国内における物質特許並びに用途特許（中国特許 ZL 200380110691.0）を付与した」と発表しました。この特許は上海ジェノミクスの国際特許ポートフォリオの一部であり、中国におけるその知的財産の重要な部分を保護することになります。

線維症は損傷や長期の炎症による癒痕（はんこん）組織の形成が原因です。ヒト線維症によく見られる疾患には、ウイルス感染（HBV/HCV）やアルコール乱用、脂肪肝に起因する肝線維症があります。ウイルス感染や慢性炎症により、抑制困難なコラーゲン生成がもたらされ、その結果肝臓内にコラーゲンが蓄積し、癒痕組織が形成されます。進行した肝線維症はしばしば肝硬変や臓器不全に至ります。F351とその誘導体は、動物モデルにおいて、過剰なコラーゲン生成を効果的に阻害し、その結果線維化の過程を遅延させるか、または改善させます。

ジーエヌアイのCEO（最高経営責任者）であるYing LUO博士は「われわれはF351の鍵となる特許を取得して非常にうれしく思います。それはわれわれが新薬開発に向けて努力することを容易にするとともに、中国における製品販売を促進します。さらに、日本および世界市場における潜在的な事業機会を提供することになります。肝疾患はアジアにおける主な医療上の脅威となっていますが、今回の特許取得は、われわれが日本および中国におけるアンメット・ニーズ（満たされていないニーズ）に対する新薬開発に真剣に取り組んでいることを示しています」と述べています。

現在のところ肝線維症に対する効果的な治療法はありません。F351は動物モデルを用いた研究において良好な安全性と薬理学上の特性を示しています。上海ジェノミクスはF351の前臨床試験を全て完了し、中国国家食品薬品监督管理局（SFDA）に肝線維症治療の新薬臨床試験申請（IND）を提出しました。現在その申請はSFDAにより審査されています。

ジーエヌアイについて

2001年設立の臨床段階にある医薬品開発企業で、活動拠点を日本と中国に有する。ジーエヌアイは、ヒト遺伝子ネットワークによる解析に成功、遺伝子ネットワーク技術を医薬品開発に応用しており、中国において臨床段階にある創薬候補物を複数パイプラインに持つ。2005年に中国上海ジェノミクスを傘下に収めたことにより、上海における研究および開発の拠点を構築した。両社の統合は、主要な世界的製薬会社との共同研究に結びついている。詳細は <http://www.gene-networks.com/> , <http://www.shanghai-genomics.com> をご覧ください。